



統計スポット情報

No. 62

14.5.31 福井県総務部情報政策課

小売業におけるコンビニと大店内小売商店の販売効率

平成11年の商業統計調査結果から、集客力の強い大規模小売店舗内の小売商店（以下「大店内小売商店」といいます。）とコンビニエンス・ストア（以下「コンビニ」といいます。）の小売業全体に占める割合をみると、大店内小売商店は、商店数が8.5%、年間販売額が28.5%を占めていますが、コンビニは、商店数が2.0%、年間販売額が2.9%にしか過ぎません。

小売業の商店数、従業者数、年間販売額、売場面積

	小売業全体				コンビニ				大店内小売商店			
	商店数	従業者数	年間販売額	売場面積	商店数	従業者数	年間販売額	売場面積	商店数	従業者数	年間販売額	売場面積
	店	人	億円	千㎡	店	人	億円	千㎡	店	人	億円	千㎡
9年	11,680	50,445	10,236	1,065	224	1,736	248	21	1,051	10,052	2,861	428
11年	11,646	55,541	9,810	1,087	230	2,369	284	22	988	11,848	2,800	466

(注1)コンビニエンス・ストアとは、セルフサービス方式を売場面積の50%以上で採用、営業時間が14時間以上、売場面積が30㎡以上250㎡未満、飲食料品を取り扱っていること、のすべての条件を満たす店舗をいいます。
 (注2)大規模小売店舗内小売商店とは、「大規模小売店舗における小売業の事業活動の調整に関する法律」(昭和48年法律第109号)の規定により届出を行った店舗をいいます。

では、単位当たりの年間販売額を見てみましょう。

1商店当たりの販売額は、店舗規模が大きい大店内小売商店が28,339万円と非常に高く、コンビニの12,332万円の2.3倍となっています。9年と比較すると、小売業全体では3.9%減少していますが、集客力の強いコンビニが11.6%増加、大店内小売商店が4.1%増加しています。

従業者1人当たりでは、コンビニが1,197万円と大店内小売商店の2,363万円の2分の1と低くなっていますが、これは終日営業店が多く、パート、アルバイトを多く採用していることによるものと考えられます。

一方、売場面積1㎡当たりでは、終日営業店が多く、商品回転率の高い飲食料品等を多く扱っているコンビニが126万円と非常に高く、大店内小売商店の2.1倍となっています。9年と比較すると、コンビニだけが8.6%増加しており、コンビニが好調な動きとなっています。

単位当たりの年間販売額

(年間販売額:万円、増減率:%)

	1商店当たり年間販売額			従業者1人当たり年間販売額			売場面積1㎡当たり年間販売額		
	小売業全体	コンビニ	大店内小売商店	小売業全体	コンビニ	大店内小売商店	小売業全体	コンビニ	大店内小売商店
9年	8,763	11,052	27,222	2,029	1,426	2,846	96	116	67
11年	8,423	12,332	28,339	1,766	1,197	2,363	90	126	60
増減率	-3.9	+11.6	+4.1	-13.0	-16.1	-17.0	-6.3	+8.6	-10.4